

# 月刊 いちえふ。

2016年  
6月号



1 FOR ALL JAPAN 事務局

## とびっくす

### 中央分離帯がない高速道路の 運転に気をつけましょう

連休中、常磐道で車の衝突事故が起きました。中央分離帯がない所では、わき見などで対向車線にはみ出してしまいます。運転には細心の注意を払いましょう。



### カレー大学のメニューが並ぶ 「カレーフェア」が始まります！

6月21日から3日間、1F構内大型休憩所の食堂で、カレーフェアが開催されます。3種類のカレーが日替わりで楽しめるので、ぜひ食堂へお越しください！



### 心身のリラクゼーションを 心掛けましょう

暑さが増してくると、心身共に疲労やイライラが蓄積してきます。就寝前に、あおむけに寝て背伸びをするなど、簡単なストレッチを行うことで深い眠りに入ることができます。

## 1Fを守る仲間たち 10

### 1Fで働く作業員みんなでもらった感謝状です



はしもと あつし  
**橋本 敦さん**

1F港湾内海底土被覆工事共同企業体(五洋建設・東亜建設工業JV)  
現場代理人

おおすみ よしたか  
**大隅 義敬さん**

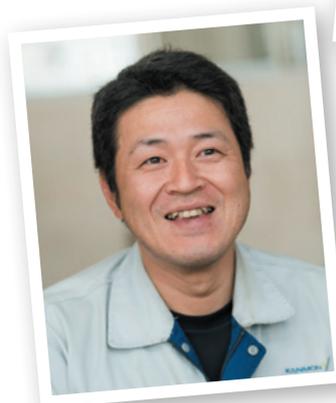
関門港湾建設株式会社  
作業班 長

1F専用港湾内の海底に沈んだ放射性物質を広げないため、海底の土砂を舞い上げないようにする工事を行いました。その作業チームに対し、この4月、経済産業省副大臣名の感謝状が授与されました。今回は、1F港湾内海底土被覆工事を担当した中から、五洋・東亜JVの橋本敦さんと、関門港湾建設の大隅義敬さんにお話をうかがいました。

—— 工事件名は「1F港湾内海底土被覆工事」ということですが、どのようなことをされたのですか。

橋本さん：1Fの港湾内には、原子炉建屋からの飛散物や汚染水の漏洩などにより放出された放射性物質が海底に

橋本さんは1995年入社。青森県の東通原子力発電所や2Fで、港湾を整備する仕事に従事してきた。1Fに来たのは震災直後の2011年5月。妻と小学生2人の子が待つ横浜の自宅へは、月に2回ほど帰っている



大隅さんは1995年入社。羽田空港拡張工事や横浜の本牧港の工事、浚渫や埋め立てなど、海洋土木の仕事をしてきた。数少ない長期の休みには、下関の自宅に帰って奥さんの手料理を味わい、愛犬に会うのが楽しみ

沈んでいました。私たちの仕事の目的は、放射性物質が含まれる土砂が舞い上がって広がらないようにすることです。

—— どのような工夫をされたのですか。

大隅さん：船で運んだ改良土を海底に沈めるのですが、悪天候や海が荒れたりすると仕事ができません。細かい打ち合わせをしながら、作業を進めていく毎日でした。工期を守りつつ海難事故もゼロで終わることができたのは、作業

メンバーの努力とコミュニケーションの賜物だと思えます。

—— 仕事が一段落して、今はどのような気持ちですか。

大隅さん：今回の仕事が終わったことで、復興への手助けをはっきりと形に表すことができたような気がします。地元の下関にいても、こういう感動を味わう機会はなかなかありません。もちろん、義援金のような形での手助けはできますが、直接1Fの現場に来て作業に携われるのはめったにないチャンスですし、自分たちがしてきたことに満足しています。

橋本さん：幸運にも、私たちの作業が認められ、経済産業省副大臣名の感謝状までいただきました。私たちの工事は目立つものだったから、たまたま感謝状をもらえたのでしょう。1Fで働くすべての方々を代表して私たちが受け取っ

たものだと考えています。

● 続きはウェブサイト「1 FOR ALL JAPAN」でお読みください  
URL : <http://1f-all.jp/interview/10/>



チームメンバー同士のコミュニケーションと努力によって、工期の厳守と海難事故ゼロを達成することができた

橋本さんのお勤め先

五洋建設株式会社

1896年、広島県呉市に五洋建設の前身である水野組が設立。明治時代から日本各地で土木工事、建築工事を手がけてきた。1967年に社名を五洋建設株式会社に改める。海洋土木を中心に、国内では関西国際空港2期工事、羽田空港拡張工事、東京湾アクアラインのほか、海外でもスエズ運河の拡幅工事などを手がけている。

大隅さんのお勤め先

関門港湾建設株式会社

1918年創業、1951年設立。山口県下関市に本社を置き、数多くの作業船を所有して港湾・海岸・空港の整備など、海洋土木事業を行っている。国内では、本州四国連絡橋の浚渫工事、関西国際空港や明石海峡大橋での埋立工事などを手がけているほか、海外でもトルコのボスポラス海峡横断鉄道の建設工事に参加した。

1Fを守る仲間たち 11

学校で廃炉作業が取り上げられ  
父を誇りに思ってくれてうれしい

関根 義昭さん

大成建設株式会社 東北支店  
東電福一関連工事作業所 工事課長

現在、1F構内では、汚染水を貯めるための新しいタンクを造る一方で、初期に建てられた継ぎ目のあるタンク（フランジタンク）解体を進めています。この4月には、タンク解体の優れた技術が認められ、H1、H2地区のタンク解体を担当している作業チームに対して、経済産業省副大臣名の感謝状が授与されました。その作業チームの中心となって働いている大成建設の関根義昭さんにお話をうかがいました。

—— どのような手順でタンクを解体していくのですか。

関根さん：他社でタンク内の汚染水を処理したあと、私たちが空になったタンクを解体していきます。タンクを解体する作業自体は難しいことではありません。ただ、1F

1990年入社。関東、四国などの各支店を経て、1Fに来る前は千葉支店に勤務し、高速道路の建設などに携わってきた。原子力関係の仕事は1Fが初めて。年に何回か、福岡に帰って家族と会うのを楽しみにしている



には放射線の問題があります。

汚染水がなくなっても、放射性物質を含むチリやホコリが内部に残っているので、それらが飛び散らないようにしなくてはなりません。また、作業中に雨が降ってタンクに雨水が触れると、それが新たな汚染水となってしまいます。そうした問題をどう解決したらよいか、関係者が集まり半年から1年間にわたって検討してきました。

## 関係者からの感謝の声が 仕事の励みになった

—— 仕事をやってよかったと感じたのは、  
どういときですか。

関根さん：第1回廃炉フォーラムで経済産業省副大臣名での感謝状をいただいたことは、大きな励みになっています。実は、福岡にいる子どもから、学校で1Fの廃炉作業が授

業で取り上げられたことを聞きました。そのとき、「うちの父さんがここで働いている」と自慢げにみんなに言ったそうです。これを聞いて誇らしく思いました。ぜひ九州の人たちにも廃炉作業の意義を知ってほしいと思います。

● 続きはウェブサイト「1 FOR ALL JAPAN」でお読みください  
URL: <http://1f-all.jp/interview/11/>

### 関根さんのお勤め先

#### 大成建設株式会社

大手総合建設会社の一つ。貿易を主な業務とした大倉組商会(1873年設立)を起源として、1917年に建設を業務とする株式会社大倉土木組が設立された。古くは、東洋初の地下鉄である東京地下鉄道・上野～雷門の工事をはじめ、最近では東京都庁第一本庁舎、中部国際空港、そして海外ではトルコのボスポラス海峡トンネル建設など、幅広い分野の建設を手がけている。

## いちえふのいま

# 今年度はさらなる安全への取り組みを進めましょう

2015年度(2015年4月～2016年3月)に熱中症や怪我をされた方は38人でした。2014年度とくらべて40%減っていますが、38人のうち約半数が1Fに来て1年未満の方となっています。災害の原因を調べたところ、危険な作業の把握不足、ルール違反、設備の整理・整頓不足が主なものでした。2016年度は、これまでの活動に加えて、KYビデオを活用したKY教育、新しく1Fに来た作業員への教育などを進めていく予定です。



### A 敷地内の線量低減

1F敷地内の除染作業を実施。3月末までに1～4号機の建屋周辺などを除き、目標値である毎時5マイクロシーベルト以下になっていることを確認。

### B 陸側遮水壁の状況

3月31日から海側および山側の一部の凍結を開始し、地中の温度が少しずつ低くなっていることを確認。今後も変化状況を把握し、効果を確認予定。

### C 1号機の原子炉建屋カバー内、散水設備の設置工事状況

原子炉建屋上部に残るガレキの撤去作業において、ダストが飛び散らないよう、散水設備の設置工事を実施。その一部であるノズル部、全13本の設置を完了。

### D 3号機の原子炉建屋最上階に遮へい体の設置を開始

使用済燃料取り出し用のカバー設置に向けて、原子炉建屋最上階の線量を減らす工事を実施。予定した除染作業がほぼ終了し、遮へい体の設置を開始。

### E 感謝状を授与されたチームが総理大臣を表敬訪問

第1回「福島第一廃炉国際フォーラム」にて、廃炉・汚染水対策に大きな功績をあげたとして、総理大臣名の感謝状を授与されたチームが総理大臣を表敬訪問。

👓 コラム

**1Fの安全統一ルール22カ条**  
【第3回】

昨年、過去の災害事例をもとに1F内で守るべき規定として、「1F安全統一ルール22カ条」を作り、運用を始めました。このコーナーでは、2カ条ずつ内容を紹介しています。

●第5条「車両の輪止め使用」

そもそも輪止めとは、車やトラックなどを長い時間停車させる際に、車両が勝手に動き出さないようにタイヤと地面の間に

かまさせる器具のことをいいます。

通常はギアをパーキングにしたり、サイドブレーキを引いておけば問題はありません。ですが、現場で車を停める場合は、万が一車両が動き出してしまうように、輪止めの使用を徹底してください。(駐車場では輪止めの使用は必要ありません)



●第6条

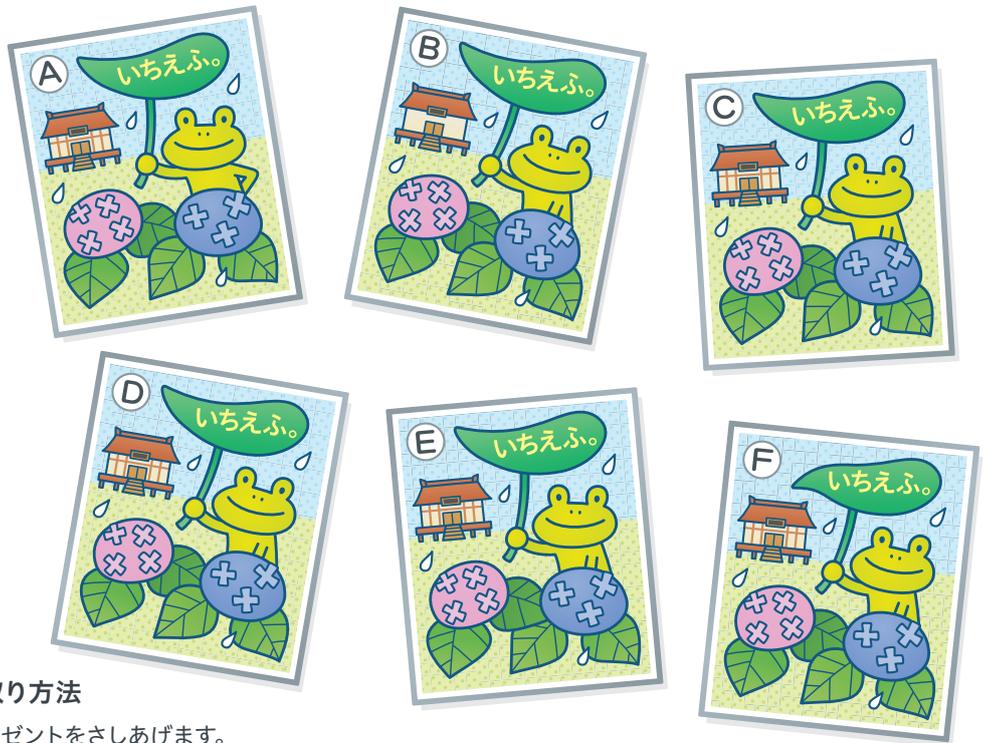
「玉掛ワイヤーロープの点検色の指定」  
クレーンなどで物を運ぶ際に欠かせない玉掛ワイヤーロープ。つり荷の落下災害を未然に防ぐためにも点検はとても大事な作業です。点検は毎月色を変えて行いますので、以下に記した点検色の玉掛ワイヤーロープを使用してください。6月は黄色になります。

- ・1月:緑 ・2月:黄 ・3月:赤 ・4月:白
- ・5月:緑 ・6月:黄 ・7月:赤 ・8月:白
- ・9月:緑 ・10月:黄 ・11月:赤 ・12月:白

🍵 いこいの時間

〈絵合わせ〉

今月は絵合わせです。絵に載っているのは、あじさい寺として知られる福島県二本松市の「高林寺」。6つの絵の中には同じ絵が2つだけあります。おわかりになりますか？



応募方法・プレゼントのお受け取り方法

正解した方の中から抽選で5名様にプレゼントをさしあげます。

「Jヴィレッジ受付、入退域管理棟、新事務棟お客さま通用口」にある応募箱に必要事項をご記入のうえ、ご応募ください。

**応募箱設置期間 6月10日～6月24日**  
(設置時間:9時～17時)

\*応募用紙は応募箱横に設置しています。  
\*当選者の発表はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます。

今号のプレゼント

1F構内の食堂で使えるプリペイドカード1000円分(保証金500円分含む)です。500円分のお食事ができ、チャージ(入金)をすれば引き続きご利用いただくことができます。



ウェブサイトの紹介

福島第一原子力発電所の廃炉事業を進める作業員みなさんに、働く仲間や応援者のメッセージを伝えたいという思いで2015年10月に開設した「1 FOR ALL JAPAN」です。ウェブサイトでも本誌でも、いちえふで働く作業員みなさまを応援していきます。



<http://1f-all.jp/>

月刊いちえふ。  
2016年6月号

【発行日】2016年6月10日  
【発行】  
1 FOR ALL JAPAN 事務局  
(東京電力ホールディングス SC室)  
【お問い合わせメールアドレス】  
info@1f-all.jp